

第10節 英語

1 これまでの課題（小中一貫教育要領に基づく実践から見られた課題）

グローバル社会に生きる児童・生徒の育成のため、平成18年度より小中一貫教育要領にて英語科を新設し、1年生からの英語教育を展開してきた。

第1学年から第6学年においては、英語の専門性をもたない小学校の教員が適切な指導を行うための方策として、副教材“Let's Enjoy English Communication (Teacher's Resource Book)”を区独自に作成した。各学年12のトピックからなり、繰り返し指導することで日常生活における英会話等の定着を図ってきた。全区立小学校で同一の副教材を活用することにより統一したカリキュラムを実践することができ、6年間の英語科を通して児童が英語に親しむことができたことは大きな成果である。

9年間の英語教育の成果を検証するために、第9学年の全生徒を対象に平成26年度より英語4技能テストを、平成29年度からは第7学年から第9学年で、品川区学力定着度調査を行っており、結果はおおむね良好で、9年間の英語学習の成果が見られる。

今後、本区の英語教育をさらに発展させるために、課題を次のように整理した。

- 意味のある文脈の中でのコミュニケーションという視点が不足していたため、ターゲットフレーズ（英語表現）の練習をし、そのフレーズを使ってやり取りをする活動がほとんどであった。その時には活動が成立するものの、その時限りで学習内容を十分に定着させることができなかつた。また、児童の中に、お互いの気持ちや考えを伝え合うという本当のコミュニケーション能力を育てることができなかつた。
- 第1学年から第6学年までの授業において、ALT（外国語指導助手）が品川区独自教材に慣れ、スムーズに授業が展開されるようになった反面、担任がALTに頼りがちになる傾向が見られた。
- 第7学年以降で、第6学年までの学習内容や指導方法の実態把握が十分とは言えず、発展的に生かすことができなかった。
- 児童の中に英語の体験的な理解は深まったものの、言葉が育ったかという疑問が残った。つまり、アクティビティを通して、英語の音やリズム、表現の楽しさに触れ、英語に慣れ親しむことはできたが、コミュニケーションにおいて活用できる技能が育ったとは言えず、学習した英語の表現や語彙が十分に定着していない部分が見られた。
- 第5学年、第6学年では「英語を身に付ける」ことが目標であったが、第1学年から第4学年までに学習した言語表現が十分に定着しておらず、自分の言いたいことが表現できない場面がしばしば見られた。そして、自信をもって表現することができないために、英語のコミュニケーションに対して、積極的になれない児童が多く見られた。新たに学習した内容についても、体験的な理解はできたものの、言語表現を定着させるには至らず、第4学年までと同様、「英語に親しむ」段階から脱却できず、十分に「英語を身に付ける」には課題が残った。
- 第7学年以降では、「聞くこと」及び「話すこと」に関して生徒の意欲的な態度は見られたが、第6学年までに学習した言語表現の内容が十分に定着しておらず、第7学年で「初めから学ぶ英語の授業」という実態があった。

2 課題を克服するための視点

第1学年から第9学年まで、一貫した英語学習を行うために、課題を克服するための視点を次のように整理した。

- 英語学習を進める教員に必要な資質
 - ・ 英語は世界中で話されている言語であり、グローバル社会において外国の人々とコミュニケーションを取るために、今後ますます必要とされる。英語を身に付けることが児童・生徒の人生の幅を広げる一つの要素となることを理解する。
 - ・ 第1学年から第6学年において、担任が授業を行う際に、ALTやJTE（英語専科指導員）との協働により授業を行い、担任自身が英語を進んで学ぶ学習者のモデルとなり、児童の学習態度を育成する。
 - ・ 第7学年においては、英語を初めて学ぶ生徒ではないという認識のもと、第6学年まで学習してきた内容・指導方法を十分に理解するとともに、それらを踏まえ、指導計画を立てて授業を行う。
- 授業改善
 - ・ 児童・生徒の実態に応じて、歌やチャンツ、ゲームなどを取り入れ興味・関心をもたせるとともに、英語の時間を通して学んだことを実感でき、児童・生徒の学習意欲に応える授業づくりを行う。
 - ・ 第3学年以上においては、英語の音声や文字の指導を体系的に行い、「読むこと」、「書くこと」の活動を充実させる。
 - ・ 第5学年以上においては、教科書を用いた授業展開を行うが、児童・生徒にとって主体的・対話的で深い学びが実現するよう指導計画を立て、児童・生徒が互いに自分の気持ちや考えを伝え合うことができるコミュニケーション能力を育成する。
 - ・ ターゲットフレーズ（英語表現）だけの文構造及び文法の導入ではなく、児童・生徒にとって意味のある文脈の中で身に付けさせることを心掛ける。

3 具体的な手だて

- 系統的なリタラシー学習の実施

第1学年から第9学年まで一貫して、読むこと、書くこと的能力の育成につながるよう、次の順でリタラシー学習を行う。また、確かな定着を図るために繰り返し、学習を行う。

 - ① アルファベット指導（大文字、小文字）
 - ・ 一文字を見て、その名前を言う。また、名前を聞いて、文字を認識して選ぶ。
 - ・ 複数文字を見て、それぞれの名前を言う。また、複数文字の名前を聞いて、それらの文字をすばやく認識して選ぶ。
 - ・ アルファベットの名前を聞いて、その文字を書く。
 - ② 音韻認識能力（話し言葉の音声的な構造を認識できる能力）の育成する指導
 - ・ 音声を onset（頭子音）と rime（母音＋尾子音）というかたまりに分節する。
 - ・ onset を聞き分けできる能力を育成する。
 - ・ rime を聞き分けできる能力を育成する。
 - （例：CAT, MAT, HAT は C-AT, M-AT, H-AT のように onset と rime に聞き分けできる能力を育成する。）
 - ・ 単語を音素レベルに分節し、認識できる能力を育成する。
 - （例：CAT → 「/k/ /æ/ /t/」 のように音素に聞き分けできる能力を育成する。）
 - ③ フォニックス指導
 - ・ アルファベット認識、音韻認識能力を十分に伸ばした上で、フォニックス指導を行う。

- 意味のある文脈の中での英語学習の実施
 - ・ 第1学年から第4学年については、物語（昔話）を題材にして、物語全体を通して意味のある文脈の中で英語の語彙や表現を繰り返し触れながら習得する。
 - ・ 第5学年及び第6学年については、物語（昔話）や教科書等を題材にして、物語全体や日常の場面設定を通して意味のある文脈の中で、語彙や表現を繰り返し触れながら習得する。
 - ・ 第7学年から第9学年については、教科書等の題材を中心に取扱い、日常の場面設定を適切に行い、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを行い、語彙や表現の習得を図り、即興性を身に付けさせる。
- 指導体制の工夫
 - ・ 第1学年及び第2学年では、担任とALTが協働して授業を行う。児童がネイティブのALTが話す英語を聞き、英語の音声に慣れ親しみ、英語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるようにする。
 - ・ 第3学年から第6学年では、担任とJTEが協働して授業を行う。系統的なリタラシー学習及び物語（昔話）や教科書等を題材にした学習を専門的に教授することで、学習内容の定着を図る。また、日頃の英語の学習の成果を試す実践の場としてジュニア・イングリッシュキャンプを設定する。
 - ・ 第7学年から第9学年では、生徒の実態に応じて少人数指導又は習熟度別指導を行う。授業担当者間の連携を十分に行い、指導方法・使用教材等について吟味する。ALTが配置される授業においては、ALTを有効に活用する。また、品川オンラインレッスンを日頃の授業の実践の場として位置付け、生徒に即興性を身に付けさせる。
- 評価の工夫
 - ・ 各学校段階に応じた目標に合わせ「英語を使って何ができるか」という視点で、CAN-DOリストを作成し、評価を行う。その際、面接、スピーチ、エッセイなどのパフォーマンス評価を十分に活用する。
 - ・ 第9学年では外部の4技能テストを活用し、習熟の状況を把握するとともに、これまでの指導方法の工夫・改善を図る。

第1 目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

国語

社会

算数
数学

理科

生活

音楽

美術
図画
工作家庭
技術
家庭体育
保健
体育

英語

〔学年ごとの目標〕

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年
	英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 知識及び技能	英語の体験的な活動を通して、日本語と英語との音声の違い等に気付くとともに、英語の音声や基本的な語句に慣れ親しむようにする。	英語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と英語との音声の違い等に気付くとともに、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
(2) 思考力・判断力・表現力等	身近で簡単な事柄について、英語で聞いたり話したりして音に慣れ親しむ。	身近で簡単な事柄について、英語で聞いたり話したりして音に慣れ親しみ、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
(3) 学びに向かう力・人間性等	英語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、簡単な英語でのコミュニケーションに慣れ親しむ態度を養う。	英語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第5学年及び第6学年	第7学年, 第8学年及び第9学年
<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ, 英語による聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことの言語活動を通して, コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ, 英語による聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことの言語活動を通して, 簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>
<p>英語の音声や文字, 語彙, 表現, 文構造, 言語の働きなどについて, 日本語と英語との違いに気づき, これらの知識を理解するとともに, 読むこと, 書くことに慣れ親しみ, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</p>	<p>英語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどを理解するとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p>
<p>コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 身近で簡単な事柄について, 聞いたり話したりするとともに, 音声で十分に慣れ親しんだ英語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり, 語順を意識しながら書いたりして, 自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 英語で簡単な情報や考えなどを理解したり, これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>
<p>英語の背景にある文化に対する理解を深め, 他者に配慮しながら, 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>英語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

第2 各学年の目標及び内容等

1 目 標

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年
目 標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、話すこと〔やり取り〕の二つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力の素地を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力の素地を育成する。	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕の三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。
(1)聞くこと	<p>ア 簡単な指示を聞いて理解し、動作で反応できるようにする。</p> <p>イ 身近で簡単な事柄を聞いて、大体の意味が理解できるようにする。</p> <p>ウ 分かる単語やイラストを手がかりに、簡単な話の大体を理解できるようにする。</p>	<p>ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。</p> <p>ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。</p> <p>○ 文脈の前後関係のはっきりした簡単な話を理解できるようにする。</p> <p>○ アルファベットの大文字、小文字を識別することができ、文字の読み方に慣れ親しむ。</p>
(2)読むこと		
(3)話すこと 〔やり取り〕	<p>ア 簡単な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたりそれらに応じたりするようにする。</p> <p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、簡単な語句や表現を用いて伝え合うようにする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。</p>	<p>ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。</p> <p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。</p>
(4)話すこと 〔発表〕		<p>ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p> <p>イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p> <p>○ 簡単な物語について、既習のものも含めて習得した概念を相互に関連付け、動作を交えながら簡単な語句や基本的な表現を用いて発表するようにする。</p> <p>→音声で十分に慣れ親しんだ短い話などを、大体の意味を理解しながら他の人に伝えるようにする。</p>
(5)書くこと		

第2章

各教科

国語

社会

算数
数学

理科

生活

音楽

美術
図工

家庭
技術・家庭

体育
保健体育

英語

第5学年及び第6学年	第7学年, 第8学年及び第9学年
<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。</p>	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。</p>
<p>ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。 ○ 分からない言葉や表現に耐えながら、文脈を頼りに、まとまった文の大体の意味が聞き取れるようにする。</p>	<p>ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。</p>
<p>○ 文字の音を聞いて、どの文字であるかが分かるようにする。</p>	
<p>ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 ・文字の1字認識、複数認識ができるようにする。 ・文字の名前読みができるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。 ・文字の音読みができるようにする。 ・簡単な語句や簡単な文の大体の意味が分かる。 ○ 音声で十分に慣れ親しんだものであれば、ある程度の速さで文が読めるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。</p>
<p>ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p>
<p>ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ○ 音声で十分に慣れ親しんだ短い話などを、登場人物の気持ちや行動を考えながら他の人に伝えることができる。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりを意識して話すことができるようにする。</p>
<p>ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。 ○ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、文字と音の関係に気付きながら書くことができる。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりを意識して書くことができるようにする。</p>
<p>○ 文字の音を聞いて、どの文字であるかを書くことができるようにする。</p>	

2 内容

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年
	<p>実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 言語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知ること。</p> <p>イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。</p> <p>(ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。</p> <p>(イ) 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。</p>	<p>実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。</p> <p>イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。</p> <p>(ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。</p> <p>(イ) 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。</p> <p>(ウ) 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深めること。</p>
ア 音声		
イ 文字及び符号		○ 活字体の大文字、小文字
ウ 語、連語及び慣用表現		

第5学年及び第6学年	第7学年，第8学年及び第9学年
<p>実際に英語を用いた言語活動を通して，次に示す言語材料のうち，1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに，言語材料と言語活動とを効果的に関連付け，実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>実際に英語を用いた言語活動を通して，次に示す言語材料のうち，1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに，言語材料と言語活動とを効果的に関連付け，実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。</p>
<p>次に示す事項のうち基本的な語や句，文について取り扱うこと。</p> <p>(ア) 現代の標準的な発音</p> <p>(イ) 語と語の連結による音の変化</p> <p>(ウ) 語や句，文における基本的な強勢</p> <p>(エ) 文における基本的なイントネーション</p> <p>(オ) 文における基本的な区切り</p>	<p>次に示す事項について取り扱うこと。</p> <p>(ア) 現代の標準的な発音</p> <p>(イ) 語と語の連結による音の変化</p> <p>(ウ) 語や句，文における基本的な強勢</p> <p>(エ) 文における基本的なイントネーション</p> <p>(オ) 文における基本的な区切り</p>
<p>○ 音韻認識，音素認識</p>	
<p>(ア) 活字体の大文字，小文字</p> <p>(イ) 終止符や疑問符，コンマなどの基本的な符号</p>	<p>感嘆符，引用符などの符号</p>
<p>読み手に伝わることを意識した単語のまとまりや文</p>	
<p>(ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる，第3学年及び第4学年において取り扱った語を含む600～700語程度の語</p> <p>(イ) 連語のうち，get up, look atなどの活用頻度の高い基本的なもの</p> <p>(ウ) 慣用表現のうち，excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcomeなどの活用頻度の高い基本的なもの</p>	<p>(ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる，第6学年までに小学校で学習した語に1600～1800語程度の新語を加えた語</p> <p>(イ) 連語のうち，活用頻度の高いもの</p> <p>(ウ) 慣用表現のうち，活用頻度の高いもの</p>

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項 (つづき)

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年
工 文及び文構造		

第2章

各教科

国語

社会

算数
数学

理科

生活

音楽

美術
図画
工作

家庭
技術・家庭

体育
保健体育

英語

第5学年及び第6学年	第7学年、第8学年及び第9学年
<p>次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。</p> <p>(7) 文</p> <p>a 単文</p> <p>b 肯定、否定の平叙文</p> <p>c 肯定、否定の命令文</p> <p>d 疑問文のうち、be 動詞で始まるものや助動詞 (can, do など) で始まるもの、疑問詞 (who, what, when, where, why, how) で始まるもの</p> <p>e 代名詞のうち、I, you, he, she などの基本的なものを含むもの</p> <p>f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの</p> <p>(イ) 文構造</p> <p>a [主語+動詞]</p> <p>b [主語+動詞+補語]のうち、</p> <p style="margin-left: 20px;">主語+be 動詞+$\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$</p> <p>c [主語+動詞+目的語]のうち、</p> <p style="margin-left: 20px;">主語+動詞+$\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$</p>	<p>小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)のエ及び次に示す事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。</p> <p>(7) 文</p> <p>a 重文、複文</p> <p>b 疑問文のうち、助動詞 (may, will など) で始まるものや or を含むもの、疑問詞 (which, whose) で始まるもの</p> <p>c 感嘆文のうち基本的なもの</p> <p>(イ) 文構造</p> <p>a [主語+動詞+補語]のうち、</p> <p style="margin-left: 20px;">主語+be 動詞以外の動詞+$\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$</p> <p>b [主語+動詞+目的語]のうち、</p> <p>(a) 主語+動詞+$\left\{ \begin{array}{l} \text{動名詞} \\ \text{to 不定詞} \\ \text{how (など) to 不定詞} \end{array} \right\}$</p> <p>(b) 主語+動詞+$\left\{ \begin{array}{l} \text{that で始まる節} \\ \text{what などで始まる節} \end{array} \right\}$</p> <p>c [主語+動詞+間接目的語+直接目的語]のうち、</p> <p>(a) 主語+動詞+間接目的語+$\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$</p> <p>(b) 主語+動詞+間接目的語+how (など) to 不定詞</p> <p>(c) 主語+動詞+間接目的語+$\left\{ \begin{array}{l} \text{that で始まる節} \\ \text{what などで始まる節} \end{array} \right\}$</p> <p>d [主語+動詞+目的語+補語]のうち、</p> <p>(a) 主語+動詞+目的語+$\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$</p> <p>(b) 主語+動詞+目的語+原形不定詞</p> <p>e その他</p> <p>(a) There + be 動詞+～</p> <p>(b) It + be 動詞+～ (+ for ～) + to 不定詞</p> <p>(c) 主語+ tell, want など+目的語+ to 不定詞</p> <p>(d) 主語+ be 動詞+形容詞+ that で始まる節</p> <p>(ウ) 文法事項</p> <p>a 代名詞</p> <p>(a) 人称や指示、疑問、数量を表すもの</p> <p>(b) 関係代名詞のうち、主格の that, which, who, 目的格の that, which の制限的用法</p> <p>b 接続詞</p> <p>c 助動詞</p> <p>d 前置詞</p> <p>e 動詞の時制及び相など</p> <p style="margin-left: 20px;">現在形や過去形、現在進行形、過去進行形、現在完了形、現在完了進行形、助動詞などを用いた未来表現</p> <p>f 形容詞や副詞を用いた比較表現</p> <p>g to 不定詞</p> <p>h 動名詞</p> <p>i 現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法</p> <p>j 受け身</p> <p>k 仮定法のうち基本的なもの</p>

〔思考力，判断力，表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年
<p>具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報や考えなどを表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 自分のことや身近で簡単な事柄について，簡単な語句や表現を使って，伝えること。</p> <p>イ 身近で簡単な事柄について，動作や簡単な単語で伝えたりすること。</p>	<p>具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報や考えなどを表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 自分のことや身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を使って，相手に配慮しながら，伝え合うこと。</p> <p>イ 身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどが伝わるよう，工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。</p> <p>ウ 身近で簡単な事柄について，音声に十分に慣れ親しんだ簡単な語句を用いて，工夫して質問したり質問に答えたりすること。</p>

第5学年及び第6学年	第7学年，第8学年及び第9学年
<p>具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，これらを表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。</p> <p>イ 身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりすること。</p>	<p>具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，これらを論理的に表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を，選択したり抽出したりするなどして活用し，話したり書いたりして事実や自分の考え，気持ちなどを表現すること。</p> <p>ウ 日常的な話題や社会的な話題について，伝える内容を整理し，英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え，気持ちなどを伝え合うこと。</p>

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2) に示す事項については、(1) に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年
ア 聞くこと	(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かたりする活動。 (イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 (ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。	(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かたりする活動。 (イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 (ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。
イ 読むこと		
ウ 話すこと 「やり取り」	(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示に応じたりする活動。 (イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、簡単な表現を伝え合う活動。 (ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。	(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。 (イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。 (ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。
エ 話すこと 「発表」		(ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。 (イ) 自分の好き嫌いや、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。 (ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。
オ 書くこと		

第5学年及び第6学年	第7学年、第8学年及び第9学年
<p>(ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。</p> <p>(イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。</p> <p>(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。</p>	<p>(ア) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。</p> <p>(イ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。</p> <p>(ウ) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動。</p> <p>(エ) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。</p>
<p>(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。</p> <p>(イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。</p> <p>(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。</p> <p>(エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。</p>	<p>(ア) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。</p> <p>(イ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。</p> <p>(ウ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。</p> <p>(エ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。</p>
○ 活字体で書かれた文字を見て、その音を適切に発音する活動。	
<p>(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。</p> <p>(イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。</p>	<p>(ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。</p> <p>(イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。</p>
<p>(ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。</p> <p>(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。</p> <p>(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。</p>	<p>(ア) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。</p> <p>(イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。</p> <p>(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。</p>
<p>(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。</p> <p>(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。</p> <p>(ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。</p> <p>(エ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。</p>	<p>(ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。</p> <p>(イ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。</p> <p>(ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。</p> <p>(エ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。</p> <p>○ 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を適切に書く活動。</p>

国語

社会

算数
数学

理科

生活

音楽

美術
図画
工作技術
家庭
家庭体育
保健
体育

英語

② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年
ア 言語の使用場面の例	(ア) 児童の身近な暮らしに関わる場面 ・家庭での生活・学校での学習や活動 ・子供の遊びなど (イ) 特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶・簡単なやりとり・買物 ・好み	(ア) 児童の身近な暮らしに関わる場面 ・家庭での生活・学校での学習や活動 ・地域の行事・子供の遊びなど (イ) 特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶・自己紹介・買物 ・食事・道案内など
イ 言語の働きの例	(ア) コミュニケーションを円滑にする ・挨拶をする・相づちを打つなど (イ) 気持ちを伝える ・礼を言う・褒めるなど (ウ) 事実・情報を伝える ・答えるなど	(ア) コミュニケーションを円滑にする ・挨拶をする・相づちを打つなど (イ) 気持ちを伝える ・礼を言う・褒めるなど (ウ) 事実・情報を伝える ・説明する・答えるなど (エ) 考えや意図を伝える ・申し出る・意見を言うなど (オ) 相手の行動を促す ・質問する・依頼する・命令するなど

第5学年及び第6学年	第7学年, 第8学年及び第9学年
<p>(ア) 児童の身近な暮らしに関わる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活・学校での学習や活動 ・地域の行事など <p>(イ) 特有の表現がよく使われる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・自己紹介・買物 ・食事・道案内・旅行など 	<p>(ア) 生徒の身近な暮らしに関わる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活・学校での学習や活動 ・地域の行事など <p>(イ) 特有の表現がよく使われる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介・買物・食事 ・道案内・旅行・電話での対応 ・手紙や電子メールのやり取りなど
<p>(ア) コミュニケーションを円滑にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする・呼び掛ける・相づちを打つ ・聞き直す・繰り返すなど <p>(イ) 気持ちを伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼を言う・褒める・謝るなど <p>(ウ) 事実・情報を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明する・報告する・発表するなど <p>(エ) 考えや意図を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申し出る・意見を言う・賛成する ・承諾する・断るなど <p>(オ) 相手の行動を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問する・依頼する・命令するなど 	<p>(ア) コミュニケーションを円滑にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し掛ける・相づちを打つ・聞き直す ・繰り返すなど <p>(イ) 気持ちを伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼を言う・苦情を言う・褒める ・謝る・歓迎するなど <p>(ウ) 事実・情報を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明する・報告する・発表する ・描写するなど <p>(エ) 考えや意図を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申し出る・約束する・意見を言う ・賛成する・反対する・承諾する ・断る・仮定するなど <p>(オ) 相手の行動を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問する・依頼する・招待する ・命令するなど

3 指導計画の作成と内容の取扱い

[第1学年から第6学年まで]

- (1) 指導計画の作成に当たっては、下位学年並びに中学校・義務教育学校（後期課程）及び高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。
- ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。
- イ 学年ごとの目標を適切に定め、6学年間を通じて英語科の目標の実現を図るようにすること。
- ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、下位の学年において英語科を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。
- エ 児童が英語に多く触れることが期待される英語学習の特質を踏まえ、必要に応じて、特定の事項を取り上げて第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行うことにより、指導の効果を高めるよう工夫すること。このような指導を行う場合には、当該指導のねらいやそれを関連付けて指導を行う事項との関係を明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して、資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
- オ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。
- カ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- キ 学級担任の教師又は英語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。
- (2) 2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- ア 2の(1)に示す言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。
- イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2の(1)のアに示す言語材料を指導すること。また、音声と文字とを関連付けて指導すること。
- ウ 文や文構造の指導に当たっては、次の事項に留意すること。
- (ア) 児童が日本語と英語との語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにするために、効果的な指導ができるよう工夫すること。

(イ) 文法用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

エ 身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、個々の児童の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。

オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

カ 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 教材は、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成するため、1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げること。

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

(ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。

(イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。

(ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つこと。

[第7学年から第9学年まで]

(1) 指導計画の作成に当たっては、小学校・義務教育学校（前期課程）や高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。特に第7学年では、第6学年までの学習内容及び学習活動を十分に踏まえ、基礎的な内容の定着を図ること。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

イ 学年ごとの目標を適切に定め、3学年間を通じて英語科の目標の実現を図るようにすること。

と。

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第1学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図り、**第7学年の学習に円滑につなげる**こと。

エ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。

オ 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

カ 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

キ 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

(2) 2の内容に示す事項については、次の事項に配慮するものとする。

ア 2の(1)に示す言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。

イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2の(1)のアに示す言語材料を継続して指導するとともに、**特に第6学年までに指導したりタラシ**活動を踏まえ発音と綴りとを関連付けて指導すること。また、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。

ウ 文字指導に当たっては、生徒の学習負担にも配慮しながら筆記体を指導することもできることに留意すること。

エ 文法事項の指導に当たっては、次の事項に留意すること。

(ア) 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとめて整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること。

(イ) 文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気付きを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

(ウ) 用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるようにするとともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。

オ 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること。

カ 身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある生徒については、個々の生徒の特性に応じて

指導内容や指導方法を工夫すること。

キ 生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態，教材の内容などに応じて，視聴覚教材やコンピュータ，情報通信ネットワーク，教育機器などを有効活用し，生徒の興味，関心をより高め，指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

ク 各単元や各時間の指導に当たっては，コミュニケーションを行う目的，場面，状況などを明確に設定し，言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより，生徒が学習の見通しを立てたり，振り返ったりすることができるようにすること。

(3) 教材については，次の事項に留意するものとする。

ア 教材は，聞くこと，読むこと，話すこと [やり取り]，話すこと [発表]，書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するため，1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について，単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに，実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げること。

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化，自然科学などに関するものの中から，生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし，次の観点に配慮すること。

(ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ，公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

(イ) 我が国の文化や，英語の背景にある文化に対する関心を高め，理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

(ウ) 広い視野から国際理解を深め，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに，国際協調の精神を養うのに役立つこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき，市民科などとの関連を考慮しながら，第3章市民科の第2に示す内容について，英語科の特質に応じて適切な指導をすること。